

防災まちづくりの会 だより

2月19日の第32回防災まちづくりの会では、第3回防災まちづくり祭の内容と、備品として購入する防災資機材、救援救護部会からの「人材さがし」の提案について話し合いました。

災害時のためにトランシーバーを購入



防災まちづくりの会では、災害時の連絡用にトランシーバーを購入しました。ご存じのように電話は、大地震が起ると電話線の被害や通話の集中によって使いづらくなります。そんな時でも連絡を取るためには、無線を使ったトランシーバーが役立ちます。

まちづくりの会では、トランシーバーが実際に使えるかどうかをテストしました。地区の端にある池袋本町1丁目児童遊園を起点として、地区のいろいろな所（遠い所、ビルの陰、傾斜地の陰など）で通話テストを行いました。テストに使ったのは1kwと5kwの出力のトランシーバーです。その結果、1kwのトランシーバーでは住宅公園やシスナブの裏では雑音が入ったものの、5kwではきれいな音で通話ができました。

そこでまちづくりの会では、区と相談して5kwのトランシーバーを購入することにしました。今年度の予算で5台、来年度数台買い足して、各町会と災害対策本部に置き、災害時の連絡用として活用いたします。また、災害時用の機械はふだん使い慣れておくことが大切です。そこで、防災まちづくり祭や防災訓練などで使いながら、非常時に備えることにします。

人材リストづくりを開始

災害が起った直後には、区役所や消防、警察は、直ぐに活動を開始できるとはかぎりません。最初のうちは自分の町は自分で守らなければならない状況になることが考えられます。そのような時、自主防災組織の役員だけでは十分な対応はできません。住民の皆さん一人一人のご協力が必要になります。

防災まちづくりの会では、災害時の防災活動に役立つ人材を把握し、活動に協力していただくため

●災害時の人材リスト

建物等からの救出	大工・工務店 土木事業者（重機の活用） 解体事業者（重機の活用） 電気事業者 印刷屋等（フォークリフトの活用） タクシー会社（大型ジャッキの活用）
けが人の手当て	医師 看護婦 医療関係の学生 整骨院 薬局（医薬品の提供） 救急訓練受講者
初期消火	地元企業との連携 地元学校との連携
情報	外国語ができる人 無線設備もっている人
ボランティア	学生
災害弱者のお世話	ヘルパー登録者 福祉関係の 主婦

に、各町会のご協力をいただきながら「人材リスト」づくりを行います。災害時に必要と思われる人材は上のような方々です。

ご協力をお願いします

このような方々がどこにいて、どんなご協力をし得るかを、町会単位で把握したいというのが、人材リストづくりの目的です。リストの作り方は次の順番で行う予定です。

- ① 町会名簿からリストアップ
- ② 対象者への協力依頼
- ③ 回覧による協力呼びかけ
- ④ 個別に協力依頼

対象となる方には、後ほど町会や防災まちづくりの会からご協力をお願いがあると思います。その節にはご協力くださいますようお願いいたします。また、上にあげた職業以外でも、自分ならこんな協力ができそうだ、こんなことに役立ちたいという方は是非、お申し出ください。人材リストとは、池袋本町住民の善意のリストになります。

町会訪問③ 池袋本町宮元町会 石川会長を訪ねて 数々の遍歴を経てますます元気

池袋本町宮元町会会長の石川実さんは、石川家14代目当主として、1931年（昭和6年）に誕生し、現在池袋本町二丁目の池袋本町中央通り商店街にて奥様とご一緒に「はきものや」を営む生粋の本町っ子でいらっしゃいます。石川さんは、平成8年5月、家業のかたわら1240世帯のうち会員数760世帯、8つの部を束ねる会長として就任され、文字どおり持前の太っ腹のご性格でさまざまな活動の先頭に立ていらっしゃいます。

この宮元町会は、1920年（大正10年）、東京府下北豊島郡西巣鴨町大字本村の地名のなかで「本村会」が結成され、その後の住所変更により「池袋五丁目町会」に改組や東西分離（東は現末広町会、西は現宮元町会）、第2次世界大戦・空襲による被災・離散をへて、終戦・敗戦によるアメリカ軍の行政処理のもとで解散を余儀なくされました。しかし、その後廃墟と化した瓦礫の山のなかでの有志によるまちおこし、防犯と明るい町「電灯会」の発足の後1952年（昭和27年）「池袋五丁目会」、翌年「池袋五丁目町会」と改名してごことに組織の復活を果た

しました。その後、行政区画・住居表示変更にともない現在の「池袋本町宮元町会」と改称し、1992年（平成4年）

4月創立40周年を迎え、ますます防火・防災、防犯、交通安全、保健衛生、青少年育成、ゴミのリサイクル・減量化などに力を入れています。

石川さんは、3年前に本町で起きた餓死事件のことにふれられ、「からだの不自由な方や、お年より、一人暮らしの方たちのリストづくりをして行政の応援をいただきながら、日常的な関係づくりをしていきたいが、プライバシーの問題でなかなか難しく」と言われながら、バリアフリーと併せてこれらももっとも実現させていかなければならないことだと話されていたらっしゃいました。

石川さんは、この土地の守り神としての水川神社をひかえての地元町会長として水川神社の総代を兼ねていらっしゃいます。（取材：渡辺、青山）



池中井戸広場

池中の井戸広場が着工しました。地域の皆さんにはご迷惑をおかけしておりますが、ご理解とご協力をお願いします。工事は、50mの深井戸を掘ったり、20tの貯水槽を埋めたりする地下部分の工事が多く、地上では、道路から校庭にあがる階段をつくり、井戸の周囲を舗装します。当初の予定より少し遅れて、4月上旬には完成する予定です。

この井戸工事中

民間井戸の整備

民間井戸整備の第1号は、池袋本町四丁目の井戸です。普段から洗濯を始めとして毎日のように使っている井戸です。今回の工事では、井戸の廻りをタイルできれいにし、防災用のバケツなどを置く倉庫を設置します。道路から奥まった路地の中にあるので、路地の敷石を新しいものにして、入り口には標識のタイルを敷きます。こちらは3月下旬には完成する予定です。

民間井戸の標識デザイン決定

民間井戸があることをお知らせするための標識のデザインが決定しました。これは前号の防災まちづくりニュースで募集したものです。池袋本町三丁目の井上一夫さんの作品が選ばれました。この作品は昔の手汲みの井戸を図案化したもので、親しみやすいデザインとなっています。今回整備される民間井戸には30cm角のタイルに焼き付けて敷石に使います。これから整備される民間井戸には、同じデザインを使って標識を作ることになります。